

卷末資料

主な広葉樹

冷温帯から暖温帯にかけて分布する主な広葉樹について、落葉・常緑別に、遷移上の位置付け、生活型、種子散布型をリスト化しています。

「遷移上の位置付け」については、「先駆種」、「二次林種」、「遷移後期種」という3つに区分していますが、これらの区分に馴染まない、中間的な特性を示す樹種も存在します。伐採跡地や若齢の二次林に出現する「遷移後期種」や、成熟した広葉樹林に出現する「二次林種」もあるため、リストの区分を参考に、現場での観察結果と自分自身の知識も合わせつつ、目的樹種や林相の判別、目標林型の設定に活用してください。

なお、リストの作成に当たっては、森林総合研究所の樹木データベース (<http://treedb.ffpri.affrc.go.jp/>) と既往の文献を参考としています。

<参考文献>

- ◆ 五十嵐哲也ほか（2014）植物の多様性の観点から人工林施業を考える：日本型「近自然施業」の可能性。森林総合研究所研究報告 13(2):29-42
- ◆ 齊藤哲ほか（2006）九州における針葉樹人工林および皆伐後再造林未済地に定着した樹木の本数密度の予測。日本森林学会誌 88:482-488

【落葉広葉樹】

遷移上の位置付け	生活型	種名	種子散布型
先駆種	高木	アカメガシワ	周食
		イイギリ	周食
		カラスザンショウ	周食
		シラカンバ	風
		ネムノキ	貯食
		ハゼノキ	周食
		バッコヤナギ	風
		ヤマハンノキ	風
	亜高木	クサギ	周食
		ヌルデ	周食
		ヤマウルシ	周食
ヤマハゼ		周食	
二次林種	高木	アオハダ	周食
		イヌシデ	風
		イヌザクラ	周食
		ウラジロノキ	周食
		ウリハダカエデ	風

遷移上の位置付け	生活型	種名	種子散布型
二次林種	高木	ウダイカンバ	風
		ウワミズザクラ	周食
		エノキ	周食
		エゾエノキ	周食
		オニグルミ	貯食
		カキノキ	周食
		カスミザクラ	周食
		カナクギノキ	周食
		キハダ	周食
		クヌギ	貯食
		クマノミズキ	周食
		クリ	貯食
		コシアブラ	周食
		コナラ	貯食
		コブシ	貯食
		チシャノキ	周食
		ツクシトネリコ	風
		ハクウンボク	周食
		ハリエンジュ	風
		ヒメシャラ	貯食
		ヒコサンヒメシャラ	貯食
		フサザクラ	風
		ホオノキ	貯食
		マルバアオダモ	風
		ミズメ	風
		ムクノキ	周食
		ヤマトアオダモ	風
		ヤマグワ	周食
	ヤマザクラ	周食	
	リュウキュウマメガキ	周食	
	垂高木	アサガラ	風
		イヌビワ	周食
ウリカエデ		風	
エゴノキ		周食	
クマシデ		風	
コハクウンボク		周食	

遷移上の位置付け	生活型	種名	種子散布型
二次林種	亜高木	ゴンズイ	周食
		タムシバ	貯食
		ニガキ	周食
		ネジキ	風
		ハマクサギ	周食
		マンサク	貯食
		ミズキ	周食
		ヤマヤナギ	風
		ヤマボウシ	周食
		リョウブ	風
遷移後期種	高木	アオダモ	風
		アカシデ	風
		アサダ	風
		アズキナシ	周食
		アワブキ	周食
		イヌブナ	貯食
		イタヤカエデ	風
		イロハモミジ	風
		エンコウカエデ	風
		オオモミジ	風
		カツラ	貯食
		ケヤキ	風
		コハウチワカエデ	風
		サワグルミ	風
		サワシバ	風
		シウリザクラ	周食
		シナノキ	風
		トチノキ	貯食
		ノグルミ	風
		ハルニレ	風
		ハウチワカエデ	風
		ハリギリ	周食
		ブナ	貯食
		ミズナラ	貯食
		ミツデカエデ	風
		ヤマモミジ	風

遷移上の位置付け	生活型	種名	種子散布型
遷移後期種	亜高木	アラゲアオダモ	風
		カマツカ	周食
		コミネカエデ	風
		サワフタギ	周食
		シラキ	貯食
		タンナサワフタギ	周食
		チドリノキ	風
		ツリバナ	周食
		ナナカマド	周食
		ヒトツバカエデ	風
		ヒナウチワカエデ	風
		マユミ	周食

【常緑広葉樹】

遷移上の位置付け	生活型	種名	種子散布型
二次林種	高木	アラカシ	貯食
		オガタマノキ	周食
		クロバイ	周食
		コジイ	貯食
		シラカシ	貯食
		シリブカガシ	貯食
		シロダモ	周食
		ユズリハ	周食
	亜高木	イヌツゲ	周食
		シキミ	貯食
		シイモチ	周食
		ソゴ	周食
		ツゲモチ	周食
		ネズミモチ	周食
		ヒサカキ	周食
リンボク	周食		
遷移後期種	高木	アカガシ	貯食
		イスノキ	自動（重力）
		イチイガシ	貯食
		ウラジロガシ	貯食

遷移上の位置付け	生活型	種名	種子散布型
遷移後期種	高木	カゴノキ	周食
		クスノキ	周食
		クロガネモチ	周食
		サンゴジュ	周食
		スタジイ	貯食
		タブノキ	周食
		ツクバネガシ	貯食
		ハナガガシ	貯食
		バリバリノキ	周食
		マテバシイ	貯食
		モチノキ	周食
		ヤブニツケイ	周食
	亜高木	イヌガシ	周食
		クロキ	周食
		サカキ	周食
		サザンカ	自動（重力）
		トキワガキ	周食
		ナナメノキ	周食
		ハイノキ	周食
		ホソバタブ	周食
ヤブツバキ	自動（重力）		

● 主な目的樹種とその特徴

【 落葉広葉樹 】

ブナ (学名 : *Fagus crenata* Blume)



特徴：樹高 30m になる高木性の落葉樹で、北海道南部から九州にかけて分布する。耐雪性が高く、多雪地帯でしばしば純林が見られる。白神山地のブナ純林は日本初の世界自然遺産として知られる。伐採後は萌芽するが大径木では萌芽しにくい。種子生産に強い豊凶があるため更新に当たっては留意する必要がある。樹皮は灰白色で割れ目がなく、平滑。蕎麦の実に似た三角錐の実を付けることからソバグリ、ソバノキなどとも呼ばれる。

(写真撮影)

上段：勝木俊雄

下段：横井秀一

ミズナラ (学名 : *Quercus crispula* Blume)



特徴 : 樹高 30m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州まで分布する。礫地に良く耐え、高い萌芽力を持つ。葉は粗い鋸歯がある倒卵形で、コナラに似るが葉柄がほとんど見えない。樹皮は淡灰褐色で縦に割れ目が入る。材は建築や家具などに用途が広く、近年ではウイスキー樽としても用いられる。

(写真撮影)

上段 : 勝木俊雄

下段 : 横井秀一

コナラ (学名 : *Quercus serrata* Murray)



特徴：高さ20m以上になる高木性の落葉広葉樹であり、北海道から九州まで広く分布する。萌芽力は高く、その発生ピークサイズは小径（直径10cm程度）である。葉は倒卵形で鋸歯があり、ミズナラに似るが葉柄がはっきりと見える。暖温帯域でも攪乱が多く発生する場所では生育が見られる。樹皮は縦に裂け目ができる。材はミズナラに劣るが、薪炭や椎茸のほだ木として利用される。

(写真撮影)

上段：勝木俊雄

下段：横井秀一

イタヤカエデ (広義) (学名 : *Acer pictum* Thunb.)



特徴 : 樹高 20m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州まで分布する。葉面の毛の状態などからいくつかの亜種に分けられるが、共通して掌状に3-5裂する鋸歯のない葉を持つ。萌芽力は中程度で、風散布する翼果を付ける。器具や楽器材として用いられ、サトウカエデと同様に樹液からメープルシロップを作ることもできるが、商業的には成立しなかった。

(写真撮影)

上段 : 勝木俊雄

中・下段 : 横井秀一



シナノキ (学名 : *Tilia japonica* (Miq.) Simonk.)



特徴 : 樹高 20m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州まで分布する。萌芽性は高く、自然状態でも多くの萌芽幹を生じて株立ちする。材は白くて柔らかく、アイスの棒やシナベニヤの化粧板に、また、樹皮の繊維はロープや衣類（アイヌのアトウシ）、籠作りなどに利用されてきた。

(写真撮影)

上段 : 勝木俊雄

中・下段 : 横井秀一

ハリギリ (学名 : *Kalopanax septemlobus* (Thunb.) Koidz.)



特徴 : 樹高 20m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州に分布する。

肥沃な土地を好み、葉はカエデのような形で枝の先に集まって互生し、樹形はタラノキに似る。樹皮は灰色で縦に深く割れ、鋭い刺がある。果実はヤツデに似て球形で黒く熟し、鳥に食べられて散布される。新芽はタラノキ同様に山菜とするほか、材は加工しやすく下駄などに用いられるが、環孔材で木目がケヤキに似るため代用品とされることも。

(写真撮影)

上段 : 勝木俊雄

下段 : 横井秀一

アサダ (学名 : *Ostrya japonica* Sarg.)



特徴 : 樹高 20m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州まで分布する。萌芽性は低い。樹皮は灰褐色で薄片となって反り返る。シデ類に似た果苞に包まれた小さな堅果を付け、風散布する。材は紅褐色で堅くて艶があり、家具や床材として利用される。

(写真撮影)

勝木俊雄

ウダイカンバ (学名 : *Betula maximowicziana* Regel)



特徴 : 樹高 30m になる高木性の落葉樹で、岐阜以東の本州および北海道に分布する。小型の風散布種子を多産する。成長は速いが耐陰性が低く、萌芽力も低い。樹皮は灰褐色で横に紙状に剥ぎ易く、油分を含んで良く燃えるため松明として用いられた。材は強く、狂いも少ないため、ピアノのハンマーなどの楽器材料や、床材に用いられる。風合いが似ていることからサクラ材として流通することもある。

(写真撮影)

上段 : 佐藤 保

下段 : 横井秀一

